

我が園の一日

舞鶴町立幼稚園 山崎 ひさ子

冷たき北風にもう冬ごもりと云ふ十二月一日大

正十四年最終の登山記録

心地よく晴れて空には一點の曇りもない麗らかなさ、されど野山の色は早くもあせて道端の千草は

霜枯の淋しさ、水の流れもすつかり冬である。けれども幼き子等はのび／＼としてさながら春の小鳥のやうだ。思ひ／＼の楽しい物語りの道行のうち

去年渡つた十五間もあらうと云ふ板橋へきた。

どん／＼橋どん／＼どん、どん／＼橋どん／＼どんと足音ならして元氣よく一列にならんだ橋の上の大喜びは實に大したものであつたと共に心弱き數名は命から／＼やつと渡ることが出來た。直ぐ

に山道にさしかゐる。

先生はすつかりおいてきばりに、彼等は足をはやめて兎の様にすん／＼のぼり、やがて萬歲々々の聲をはなつて先生をむかへた。

見渡す限り陽光はあた／＼かに輝きて真に美しい大自然に抱かれた。あゝこの喜び幸ひなるかな、地方園児等よと涙ぐましい程に尊い山上の樂園。

九十餘名の幼児はあちこちに各が求めるものに餘念がない。赤い木の實や黒い木の實、粘土掘にま／＼と遊び、山上がりや鬼退治等時は夢とすぎて名残惜しくも歸途をせかれ皇孫殿下御降誕記念にと二三の小松を手にして下山した。A兒、今日の

遠足面白かつた。B 兒、先生お辨當を持って又つれて行つて、C 兒、エベレスト山高いね、富士山へ登りたいね。D 兒、あの山紫色ね等語りつ歌ひつして二つ橋にさしかゝつた。先生お星さんが水呑んどつてや、一幼兒の驚きの聲にはつと立ち止まりて川を眺む美しい水の流れにきら／＼と太陽の光は無数の星を宿してほんとうに美味しい水を呑んでゐる。餘りの美しい情緒と其の光景に驚歎したのであつた。同時にお天とさんの星がうつつたのですねと誰かど云つた。E 兒、いなごを持つて

る先生水に流したら可愛そうやね。大層困るでせうよ間もなく「先生草の上にはなしたと云ふ。すると又 F 兒、家の方ではね「猫の子が生れるとねみな海へ流してんやで、そして少し泳いで皆死んでしまふ」と、「まあ可愛そうにね」と答へて話を轉じやがて歸園した。小松は可愛らしく植へられた皆が見てゐる。私は「根付いて大きくなつてほしいね」と言つた寛ちやん水を持つて「大きくなれ大きくなれ」と注ぎかけだをして一同がほゝえんだ。

○春水に小舟持ちたる裏戸かな

虚 子

○ひた／＼と春の潮打つ鳥居かな

碧 梧 桐

○三つ食へば葉三片や櫻餅

虚 子